

令和6年12月2日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 先端国際共同研究推進事業 「TOPのためのASPIRE」「次世代のためのASPIRE」 における新規課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）<sup>注1</sup>で実施する「TOPのためのASPIRE」「次世代のためのASPIRE」において、新規課題の採択を決定しました（別紙1、2）。

このたび、JSTは協力相手国・地域の研究資金配分機関や研究機関などのプログラムで支援を受けている、または支援を受ける予定の研究者と、AI・情報、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、通信の7分野で国際共同研究を実施する日本側研究者からの提案を募集しました。

その結果、「TOPのためのASPIRE」では7分野で計46件、「次世代のためのASPIRE」では7分野で計85件の応募があり、それぞれ14課題、18課題の採択を決定しました。

「TOPのためのASPIRE」の研究期間は約5年、日本側の研究費（予算額）は1課題当たり5億円を上限（間接経費30パーセント込み）、「次世代のためのASPIRE」の研究期間は約3年、日本側の研究費（予算額）は1課題当たり9,000万円を上限（間接経費30パーセント込み）としています。

注1）先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）

ASPIRE: Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem  
ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/aspire/>

<添付資料>

- 別紙1：令和6年度「TOPのためのASPIRE」新規課題一覧
- 別紙2：令和6年度「次世代のためのASPIRE」新規課題一覧
- 別紙3：評価委員
- 参考1：令和6年度「TOPのためのASPIRE」採択課題評価基準
- 参考2：令和6年度「次世代のためのASPIRE」採択課題評価基準

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 国際部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

小林 治（コバヤシ オサム）

Tel：03-6261-1994

E-mail：[aspire\[at\]jst.go.jp](mailto:aspire@jst.go.jp)

### <科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちほだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

令和6年度「TOPのためのASPIRE」  
新規課題一覧

■ AI・情報

| 課題名  | 日本側研究者   |
|--|--|
|  | 相手側研究者   |
| 1<br>多様な情報技術を融合した計算論的ものづくりのための国際共同研究ネットワーク               | <p>五十嵐 健夫<br/>東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授</p> <p>フランス クリスチャン・サンダー<br/>パリ＝サクレ大学 分野横断数値計算研究室 教授</p> <p>米国 ボー・ジュー<br/>ジョージア工科大学 インタラクティブコンピューティング学部 助教授</p> <p>米国 シグリッド・アドリアンセンス<br/>プリンストン大学 土木環境工学科 教授</p>   |
| 2<br>サイバーフィジカルダイナミカルシステムの数理基盤創生：制御と予測・学習に関する学際的研究展開と人材育成 | <p>蛭原 義雄<br/>九州大学 システム情報科学研究院 教授</p> <p>フランス デイミトリ・ポーセル<br/>LAAS-CNRS Decision &amp; Optimization Department シニア研究員</p> <p>イタリア ファブリチオ・ダッベネ<br/>CNR IEIIT (Istituto di Elettronica e di Ingegneria dell'Informazione e delle Telecomunicazioni) 研究主幹</p> <p>オランダ モーリス・ヒーメルス<br/>アイントホーフェン工科大学 機械工学科 教授</p> <p>スウェーデン カール・ヘンリック・ヨハンソン<br/>KTH王立工科大学 電気工学・計算機科学科 スウェーデン研究評議会卓越教授</p> |
| 3<br>医療×AIの日独重層型研究開発ネットワーク形成と産業創出                        | <p>黄瀬 浩一<br/>大阪公立大学 大学院情報学研究科 教授</p> <p>ドイツ アンドレアス・デンゲル<br/>ドイツ人工知能研究センター エグゼクティブ・ディレクター</p>   |
| 4<br>人間・空間拡張に関する国際共同研究ネットワークの構築                          | <p>小池 英樹<br/>東京科学大学 情報理工学院 教授</p> <p>オーストラリア マーク・ビリングハースト<br/>サウスオーストラリア大学 ヒューマンコンピュータインタラクション 教授</p>  |

|   |   |  |
|---|---|--|
|   |   | <p><b>デンマーク</b> ブラウン・バリー<br/>コペンハーゲン大学 コンピュータ科学専攻 教授</p> <p><b>ドイツ</b> アルブレヒト・シュミット<br/>ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン 計算機科学科<br/>教授</p> <p><b>ドイツ</b> フランク・シュタイニッケ<br/>ハンブルク大学 情報学専攻 教授</p> <p><b>米国</b> ゴードン・ウエットシュタイン<br/>スタンフォード大学 電気工学科 准教授</p> <p><b>米国</b> クリス・キタニ<br/>カーネギーメロン大学 ロボティックスインスティテュート<br/>研究准教授</p>                                       |
| 5 | <p>Mental Well-being Intelligence: 人の心理的健康に関するデータ駆動的な研究コミュニティ</p> | <p>矢谷 浩司<br/>東京大学 大学院工学系研究科 准教授</p> <p><b>オーストラリア</b> マーク・ビリングハースト<br/>サウスオーストラリア大学 STEM学部 教授</p> <p><b>オーストラリア</b> トンリャン・リウ<br/>シドニー大学 コンピュータ科学科 准教授</p> <p><b>フィンランド</b> シモ・ホシオ<br/>オウル大学 情報工学・電気工学専攻 准教授</p> <p><b>米国</b> ネハ・クマール<br/>ジョージア工科大学 サムナン国際関係学部・インタラクティブコンピューティング学部 准教授</p> <p><b>米国</b> タンジーム・チョウドリー<br/>コーネル工科大学 コンピュータ・情報科学科 教授</p> |

■ バイオ

| 課題名  | 日本側研究者  |
|--|---|
|  | 相手側研究者  |
| 1<br>海洋生態系変動の統合分析に係る研究開発と海洋頭脳循環プラットフォームの構築 | <p>稲垣 史生<br/>東北大学・海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム高等研究所 (WPI-AIMEC) 副研究所長／研究部門長／教授</p> <p><b>ドイツ</b> サビン・カステン<br/>アルフレッド・ウェゲナー極域海洋研究所 海洋地球化学セクション セクション長／教授</p> <p><b>米国</b> アンジェリック・ホワイト ハワイ大学マノア校 海洋学科 教授</p> <p><b>米国</b> 小野 周平<br/>マサチューセッツ工科大学 地球大気惑星科学科 教授</p> <p><b>米国</b> シャンピン・シェ</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | カリフォルニア大学サンディエゴ校 スクリプス海洋研究所<br>Roger Revelle Chair 特別教授 |
|--|---|

### ■エネルギー

| 課題名   | 日本側研究者  |
|---|---|
|   | 相手側研究者  |
| 1<br>ナノ／マイクロ構造を含む無機パワーストレージ材料インフォマティクスを実現する国際データ解析プラットフォームの構築 | <p>平山 雅章<br/>東京科学大学 物質理工学院 教授</p> <p><b>フランス</b> ローラン・アントニー<br/>原子力・代替エネルギー庁 新エネルギー技術研究部門 シニアフェロー</p> <p><b>英国</b> マイケル・デ・ボルダー<br/>ケンブリッジ大学 工学部 教授</p> <p><b>米国</b> アンドレイ・フェドロフ<br/>ジョージア工科大学 ジョージ・W・ウッドラフ機械工学科 ライ・S・アンド・フランク・H・ニーリー主任教授／副研究科長</p> <p><b>米国</b> マイケル・ゴードン<br/>カリフォルニア大学サンタバーバラ校 化学工学専攻 化学工学専攻長／シュリングー冠教授</p> <p><b>米国</b> イグアン・ジュ<br/>プリンストン大学 機械・航空宇宙工学専攻 ロバート・ポーター・パターソン冠教授</p> |

### ■マテリアル

| 課題名                          | 日本側研究者  |
|------------------------------|---|
|                              | 相手側研究者  |
| 1<br>次世代複合アニオン科学：反応・構造制御と新機能 | <p>陰山 洋<br/>京都大学 工学研究科 教授</p> <p><b>フランス</b> ローラン・カリオ<br/>ナント大学 ナント材料研究所 CNRS 研究部長</p> <p><b>英国</b> アンドリュー・グッドウィン<br/>オックスフォード大学 化学科 教授</p> <p><b>英国</b> マイケル・ハイワード<br/>オックスフォード大学 化学科 教授</p> <p><b>米国</b> ウェンハオ・サン<br/>ミシガン大学 工学科 ダウ・コーニング助教</p> |
| 2<br>持続可能社会に向けたスピントロニクス材料・素子 | <p>廣畑 貴文<br/>東北大学 先端スピントロニクス研究開発センター 教授</p>   |

|        |  |
|--------|--|
| 子の基盤研究 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ドイツ</div> クラウディア・フェルザー<br>マックスプランク研究所 固体化学物理学研究所 トポロジー量子化学部門長 |
|--------|--|

## ■量子

| 課題名 |                                       | 日本側研究者   |
|-----|---------------------------------------|--|
|     |                                       | 相手側研究者   |
| 1   | 人材育成と量子スピントロニクス技術の基盤確立に向けた日仏共同イニシアティブ | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大谷 義近</div><br>東京大学 物性研究所 教授<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">フランス</div> ルシアン・プレジュブヌ<br>仏 原子力・代替エネルギー庁 スピントロニクス・技術研究部門 部門長 |

## ■半導体

| 課題名 |                                      | 日本側研究者  |
|-----|--------------------------------------|---|
|     |                                      | 相手側研究者  |
| 1   | 異種チップ集積による量子古典インタフェースの国際共同研究         | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">石黒 仁揮</div><br>慶應義塾大学 理工学部 教授<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ドイツ</div> ワディム・イサコフ<br>ブラウンシュバイク工科大学 CMOS設計研究所 所長  |
| 2   | パワー半導体をDX化するデジタルゲートプラットフォームの創生       | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">高宮 真</div><br>東京大学 生産技術研究所 教授<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">米国</div> ロランド・ブルゴス<br>バージニア工科大学 パワーエレクトロニクスシステムセンター センター長・教授   |
| 3   | 半導体ヘテロジニアス集積デバイスのためのIV族混晶材料の汎用量子物性制御 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">中塚 理</div><br>名古屋大学 大学院工学研究科 物質科学専攻 教授<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ベルギー</div> ロジャー・ルー<br>imec 主席テクニカル・スタッフ<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ドイツ</div> ダン・ミハイ・ブッカ<br>ユーリヒ総合研究機構 ピーター・グリュンベルク研究所 グループリーダー<br><hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ドイツ</div> 山本 裕司<br>アイエイチピー研究機関 テクノロジー部門 研究者 / IV族エピタキシーモジュール責任者 |

■通信

| 課題名 |                          | 日本側研究者   |
|-----|--------------------------|--|
|     |                          | 相手側研究者   |
| 1   | 無線テラヘルツ技術に関する国際研究イニシアティブ | 藤島 実<br>広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授  |
|     |                          | <p>オーストリア ヴォルフガング・ベーシュ<br/>グラーツ工科大学 電気情報工学部 学部長・教授</p> <p>ベルギー ピート・ワンバック<br/>imec フェロー</p> <p>フィンランド アルノ・パルシネン<br/>オウル大学 情報電気工学部 教授</p> <p>ドイツ ハリス・ガチャーニン<br/>アーヘン工科大学 分散信号処理座長 教授</p> <p>米国 プレドラク・スパソイエビッチ<br/>ラトガース大学 工学部 電気・コンピューター工学科 教授</p> |

令和6年度「次世代のためのASPIRE」  
新規課題一覧

## ■ AI・情報

| 課題名 |   | 日本側研究者   |
|-----|---|--|
|     |   | 相手側研究者   |
| 1   | Context-Awareなソフトウェア開発<br>AIの実現に向けた国際<br>頭脳循環 | 亀井 靖高<br>九州大学 システム情報科学研究所 教授   |
|     |   | <b>オーストラリア</b> チャクリット・タンティタムターボーン<br>モナシュ大学 情報技術学部 上級講師                    |
|     |   | <b>カナダ</b> アハマド・ハッサン<br>クィーンズ大学 計数学部 教授                                    |
|     |   | <b>カナダ</b> シェーン・マッキントッシュ<br>ウォータールー大学 デイヴィッド・R・チェリトン・コンピュータ<br>サイエンス学部 准教授 |
|     |   | <b>イタリア</b> ジェマ・カトリーノ<br>サレーノ大学 コンピュータサイエンス学科 助教                           |
|     |   | <b>オランダ</b> アレキサンダ・セレブレニック<br>アイントホーフェン工科大学 数学・コンピュータサイエンス学科<br>教授         |
|     |   | <b>スイス</b> ガブリエレ・バボッタ<br>スイスイタリア大学 情報学部 教授                                 |
|     |   | <b>米国</b> リンミン・ジャン<br>イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 シーベル・コンピューティ<br>ング・データサイエンス学部 准教授 |

## ■ バイオ

| 課題名 |  | 日本側研究者   |
|-----|--|--|
|     |  | 相手側研究者   |
| 1   | 未踏活性天然物群生合成<br>開拓のための国際研究プ<br>ラットフォームの構築         | 淡川 孝義<br>理化学研究所 環境資源科学研究センター チームリーダー                     |
|     |  | <b>米国</b> ブラッドレイ・ムーア<br>カリフォルニア大学サンディエゴ校 スクリプス海洋研究所 教授   |
| 2   | マルチモダリティ標識化<br>技術による次世代空間ゲ<br>ノミクスとプール化表現<br>型解析 | 太田 禎生<br>東京大学 先端科学技術研究センター 准教授                           |
|     |  | <b>カナダ</b> ピーター・ザンストラ<br>ブリティッシュコロンビア大学 医学部・応用科学部 生体医工学科 |



|   |   |  |
|---|---|--|
|   |   | 教授<br>[米国] サム・ペン<br>ブロード研究所 マサチューセッツ工科大学 化学科 助教授                           |
| 3 | ペプチド骨格変換酵素の<br>試験管内流用による機能<br>性擬天然ペプチドの創製 | 後藤 佑樹<br>京都大学 大学院理学研究科 教授<br>[スイス] ヨーン・ピエール<br>スイス連邦工科大学チューリッヒ校 微生物学研究所 教授 |

## ■エネルギー

| 課題名 |  | 日本側研究者  |
|-----|--|---|
|     |  | 相手側研究者  |
| 1   | 蓄電固体時代の次世代<br>「ものづくり」ネット<br>ワークの構築                   | 大野 真之<br>東北大学 多元物質科学研究所 准教授<br>[ドイツ] ウォルフガング・ザイアー<br>ミュンスター大学 無機解析化学研究所 教授<br>[英国] ダンカン・グレゴリー<br>グラスゴー大学 化学科 教授<br>[米国] プラシュン・ゴライ<br>コロラド鉱山大学 金属材料工学 助教   |
| 2   | Power-to-X技<br>術を牽引する次世代の日<br>米欧国際頭脳循環               | 片山 祐<br>大阪大学 産業科学研究所 准教授<br>[イタリア] シメリス・ヘルナンデス<br>トリノ工科大学 応用科学技術専攻 准教授<br>[スペイン] マリア・エスクデロ・エスクリバノ<br>カタルーニャ州ナノサイエンス・ナノテクノロジー研究所 ナノ電<br>気化学部門 教授<br>[英国] レシマ・ラオ<br>インペリアルカレッジロンドン 自然科学専攻 講師<br>[米国] ケルシー・ステルツィンガー<br>ミネソタ大学 化学工学・材料科学科 准教授 |
| 3   | 実験－理論－データ科学<br>統合型手法による革新的<br>Power-to-X電<br>極触媒材料設計 | 坂牛 健<br>物質・材料研究機構 エネルギー・環境材料研究センター チーム<br>リーダー<br>[カナダ] シューファ・ジャン<br>アルバータ大学 工学部 教授<br>[デンマーク] イブ・コッケンドルフ<br>デンマーク工科大学 物理学科 教授  |
| 4   | 濃厚・混合溶媒系熱化学<br>電池の研究と電気化学的                           | 山田 鉄兵<br>東京大学 大学院理学系研究科 教授  |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 窒素変換への展開を基盤とした国際プラットフォームの構築 | <p>オーストラリア アレクサンドル・シモノフ<br/>モナッシュ大学 化学研究科 准教授</p> |
|-----------------------------|---|

### ■マテリアル

| 課題名 |                                     | 日本側研究者   |
|-----|-------------------------------------|--|
|     |                                     | 相手側研究者   |
| 1   | 熱活性化遅延蛍光を活用した持続可能な次世代バイオイメージング材料の創製 | <p>武田 洋平<br/>大阪大学 大学院工学研究科 准教授</p> <p>カナダ ザッカリー・ハドソン<br/>ブリティッシュコロンビア大学 化学科 准教授</p> <p>デンマーク ピオトル・デ・シルバ<br/>デンマーク工科大学 エネルギー変換・貯蔵学科 教授</p> <p>英国 マーク・エザリントン<br/>ノーザンブリア大学 数物・電子工学科 助教</p>   |
| 2   | 超分子集合体に基づくダイナミック二次元材料の創成            | <p>古川 修平<br/>京都大学 高等研究院 教授</p> <p>スペイン カルロス・マルティ・ガスタルド<br/>バレンシア大学 分子科学研究所 准教授</p>   |
| 3   | スピン制御で拓く光機能性材料の新フロンティア              | <p>楊井 伸浩<br/>東京大学 理学系研究科 教授</p> <p>ドイツ サビネ・リチャート<br/>フライブルグ大学 物理化学研究所 ジュニアグループリーダー</p> <p>韓国 ルイス・アンテル<br/>成均館大学校 量子生命物理科学院 研究教授</p> <p>スウェーデン カール・ボーゼソン<br/>ヨーテボリ大学 化学分子生物学科 教授</p> <p>英国 クリスティアン・ティメル<br/>オックスフォード大学 化学科 教授</p> <p>英国 クラウディア・タイト<br/>オックスフォード大学 化学科 英国王立協会大学研究員</p> <p>英国 ゴードン・ヘッドリー<br/>グラスゴー大学 化学科 シニア講師</p> <p>英国 ジェニー・クラーク<br/>シェフィールド大学 物理天文学科 教授</p> <p>英国 サム・ベイリス<br/>グラスゴー大学 電子・ナノスケール工学部門 講師</p> <p>英国 スチュワート・マッケンジー</p> |

|  |                   |
|--|-------------------|
|  | オックスフォード大学 化学科 教授 |
|--|-------------------|

## ■量子

| 課題名 |                            | 日本側研究者   |
|-----|----------------------------|--|
|     |                            | 相手側研究者   |
| 1   | 近未来型量子中継技術の実現              | 武岡 正裕<br>慶應義塾大学 理工学部 電気情報工学科 教授  |
|     |                            | <span>デンマーク</span> ウルリック・アナセン<br>デンマーク工科大学 物理学科 教授   |
| 2   | 電子ペニングトラップを用いた高性能集積量子ビット開発 | 野口 篤史<br>理化学研究所 量子コンピュータ研究センター チームリーダー   |
|     |                            | <span>オーストリア</span> エバーハード・ウィッドマン<br>オーストリア科学アカデミー ステファンマイヤー研究所 所長<br><span>米国</span> ハウトムット・ヘフナー<br>カリフォルニア大学バークレー校 教授/C I Q C 所長 |
| 3   | 電荷秩序を用いたトポロジカル物質の磁気機能開拓    | ヒルシュベルガー・マクシミリアン<br>東京大学 大学院工学系研究科 准教授   |
|     |                            | <span>米国</span> レスリー・シュープ<br>プリンストン大学 化学専攻 教授  |

## ■半導体

| 課題名 |   | 日本側研究者  |
|-----|---|---|
|     |   | 相手側研究者  |
| 1   | エッジ・クラウド協調A I 計算基盤のためのDSLとコンパイラによる高度な自動コード最適化 | 佐藤 幸紀<br>豊橋技術科学大学 工学研究科 准教授                                   |
|     |   | <span>米国</span> サマン・アマラシンヘ<br>マサチューセッツ工科大学 電気工学・コンピュータ科学学部 教授 |
| 2   | LSIの真正性保証基盤によるトラスト社会の創出                       | 塩見 準<br>大阪大学 大学院情報科学研究科 准教授                                   |
|     |   | <span>米国</span> アレックス・オリロル<br>カリフォルニア大学サンディエゴ校 コンピュータ理工学部 教授  |

■通信

| 課題名 |  | 日本側研究者   |
|-----|--|--|
|     |  | 相手側研究者   |
| 1   | 自律移動体群制御用ワイヤレスネットワークに向けた米国を中心とした国際共同研究開発 | 猿渡 俊介<br>大阪大学 大学院情報科学研究科 准教授   |
|     |  | <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">米国</span> ディネシュ・バラディア<br>カリフォルニア大学サンディエゴ校 電気情報工学科 准教授                 |
| 2   | 先進電磁材料に基づく電波環境デザインとその数値解析法               | 若土 弘樹<br>名古屋工業大学 大学院工学研究科 准教授  |
|     |  | <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">イタリア</span> フィリベルト・ビロッチェ<br>ローマ第三大学 産業電子機械工学科 アンテナ-メタマテリアル研究ラボ 教授/ラボ長 |
|     |  | <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">英国</span> アナ・ヴコヴィック<br>ノッティンガム大学 電気電子工学科 ジョージグリーン電磁研究所 教授/所長          |
|     |  | <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">米国</span> ダニエル・シエヴェンパイパー<br>カリフォルニア大学サンディエゴ校 ジェイコブススクール工学研究科 教授       |

## 評価委員

## 運営統括

| 氏名     | 所属・役職            |
|--------|------------------|
| 宮野 健次郎 | 物質・材料研究機構 名誉フェロー |

## 「AI・情報」分野

| 氏名    | 所属・役職   | 備考     |
|-------|---|--------|
| 八木 康史 | 大阪大学 産業科学研究所 教授                                   | 研究主幹   |
| 岡部 寿男 | 京都大学 学術情報メディアセンター 教授／センター長                        | アドバイザー |
| 加藤 和彦 | 筑波大学 副学長  | アドバイザー |
| 佐藤 嘉伸 | 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学領域 教授                           | アドバイザー |
| 杉本 晃宏 | 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授                            | アドバイザー |
| 滝沢 穂高 | 筑波大学 システム情報系 教授／学術情報メディアセンター センター長                | アドバイザー |
| 中村 裕一 | 京都大学 学術情報メディアセンター 教授                              | アドバイザー |
| 馬場口 登 | 福井工業大学 経営情報学部 教授／学部長                              | アドバイザー |
| 前田 英作 | 東京電機大学 システムデザイン工学部 教授                             | アドバイザー |
| 間瀬 健二 | 名古屋大学 数理・データ科学・人工知能教育研究センター 特任教授／名誉教授             | アドバイザー |
| 松井 知子 | 統計数理研究所 学際統計数理研究系 教授                              | アドバイザー |
| 美濃 導彦 | 理化学研究所 研究政策審議役／情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト プロジェクトリーダー | アドバイザー |
| 森島 繁生 | 早稲田大学 理工学術院 教授                                    | アドバイザー |
| 森田 浩  | 大阪大学 大学院情報科学研究科 教授                                | アドバイザー |

「バイオ」分野

| 氏名      | 所属・役職                         | 備考     |
|---------|-------------------------------|--------|
| 竹山 春子   | 早稲田大学 先進理工学部 教授               | 研究主幹   |
| 五十嵐 圭日子 | 東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授          | アドバイザー |
| 小澤 岳昌   | 東京大学 大学院理学系研究科 教授             | アドバイザー |
| 神谷 典穂   | 九州大学 大学院工学研究院 教授              | アドバイザー |
| 高木 昌宏   | 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科<br>教授 | アドバイザー |
| 武田 泉穂   | MVP株式会社 代表取締役                 | アドバイザー |
| 田畑 哲之   | かずさDNA研究所 副理事長／所長             | アドバイザー |
| 橋本 せつ子  | 株式会社セルシード 代表取締役社長             | アドバイザー |
| 松井 南    | 横浜市立大学 木原生物学研究所 特任教授          | アドバイザー |
| 宮下 英明   | 京都大学 大学院人間・環境学研究科 教授          | アドバイザー |
| 由良 敬    | お茶の水女子大学 基幹研究院 教授             | アドバイザー |
| 吉野 知子   | 東京農工大学 工学研究院 教授               | アドバイザー |

「エネルギー」分野

| 氏名    | 所属・役職                         | 備考     |
|-------|-------------------------------|--------|
| 菅野 了次 | 東京科学大学 科学技術創成研究院 特命教授         | 研究主幹   |
| 大友 季哉 | 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所<br>教授 | アドバイザー |
| 金光 義彦 | 京都大学 化学研究所 特任教授               | アドバイザー |

|        |  |        |
|--------|--|--------|
| 櫻井 庸司  | 豊橋技術科学大学 名誉教授                                | アドバイザー |
| 栄部 比夏里 | 九州大学 先導物質化学研究所 教授                            | アドバイザー |
| 中村 優美子 | 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 エネルギープロセス研究部門 副研究部門長    | アドバイザー |
| 堀田 照久  | 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 省エネルギー研究部門 研究部門長        | アドバイザー |
| 本間 格   | 東北大学 多元物質科学研究所 教授                            | アドバイザー |
| 射場 英紀  | トヨタ自動車株式会社 先端材料技術部<br>チーフプロフェッショナルエンジニア（CPE） | アドバイザー |

「マテリアル」分野

| 氏名    | 所属・役職                                    | 備考     |
|-------|--|--------|
| 相田 卓三 | 理化学研究所 創発物性科学研究センター 副センター長               | 研究主幹   |
| 石田 康博 | 理化学研究所 創発物性科学研究センター チームリーダー              | アドバイザー |
| 内田 健一 | 物質・材料研究機構 磁性・スピントロニクス材料研究センター 上席グループリーダー | アドバイザー |
| 片岡 一則 | 川崎市産業振興財団 副理事長／ナノ医療イノベーションセンター センター長     | アドバイザー |
| 片岡 淳  | 早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 教授                    | アドバイザー |
| 北川 進  | 京都大学 高等研究院 特別教授／副院長                      | アドバイザー |
| 北川 宏  | 京都大学 大学院理学研究科 教授                         | アドバイザー |
| 但馬 敬介 | 理化学研究所 創発物性科学研究センター チームリーダー              | アドバイザー |
| 浜地 格  | 京都大学 大学院工学研究科 教授                         | アドバイザー |
| 山内 悠輔 | 名古屋大学 大学院工学研究科 卓越教授                      | アドバイザー |
| 山口 茂弘 | 名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 教授              | アドバイザー |

「量子」分野

| 氏名    | 所属・役職                             | 備考     |
|-------|-----------------------------------|--------|
| 川上 則雄 | 立命館大学 大学院理工学研究科 客員教授              | 研究主幹   |
| 岩本 敏  | 東京大学 先端科学技術研究センター 教授              | アドバイザー |
| 勝本 信吾 | 東京都市大学 理工学部 教育講師                  | アドバイザー |
| 小林 研介 | 東京大学 大学院理学系研究科 教授                 | アドバイザー |
| 瀧川 仁  | 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所<br>協力研究員  | アドバイザー |
| 樽茶 清悟 | 理化学研究所 創発物性科学研究センター<br>グループディレクター | アドバイザー |
| 都倉 康弘 | 筑波大学 数理物質系 教授                     | アドバイザー |
| 藤井 啓祐 | 大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授                | アドバイザー |
| 松田 祐司 | 京都大学 大学院理学研究科 教授                  | アドバイザー |
| 向山 敬  | 東京科学大学 理学院 教授                     | アドバイザー |

「半導体」分野

| 氏名     | 所属・役職  | 備考     |
|--------|--|--------|
| 天野 英晴  | 東京大学 大学院工学系研究科 附属システムデザイン<br>研究センター (d. lab) 特任研究員 | 研究主幹   |
| 飯田 全広  | 熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 教授                             | アドバイザー |
| 岩崎 裕江  | 東京農工大学 工学研究院 教授                                    | アドバイザー |
| 宇佐美 公良 | 芝浦工業大学 工学部 教授                                      | アドバイザー |
| 遠藤 哲郎  | 東北大学 国際集積エレクトロニクス研究開発セン<br>ター センター長/工学研究科 教授       | アドバイザー |
| 大倉 俊介  | 立命館大学 理工学部 教授                                      | アドバイザー |
| 木本 恒暢  | 京都大学 大学院工学研究科 教授                                   | アドバイザー |



|       |   |        |
|-------|---|--------|
| 中村 宏  | 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授                            | アドバイザー |
| 平本 俊郎 | 東京大学 生産技術研究所 教授                                 | アドバイザー |
| 本久 順一 | 北海道大学 量子集積エレクトロニクス研究センター<br>センター長／大学院情報科学研究院 教授 | アドバイザー |

「通信」分野

| 氏名    | 所属・役職                                    | 備考     |
|-------|--|--------|
| 山中 直明 | 慶應義塾大学 特任教授                              | 研究主幹   |
| 植松 友彦 | 東京科学大学 工学院 教授                            | アドバイザー |
| 大木 英司 | 京都大学 情報学研究科 教授                           | アドバイザー |
| 笹瀬 巖  | 慶應義塾大学 名誉教授                              | アドバイザー |
| 鈴木 正敏 | 公立千歳科学技術大学 副学長／教授                        | アドバイザー |
| 富澤 将人 | NTTイノベティブデバイス株式会社<br>代表取締役副社長            | アドバイザー |
| 中野 義昭 | 東京大学 大学院工学系研究科 教授                        | アドバイザー |
| 並木 周  | 産業技術総合研究所 プラットフォームフォトンクス<br>研究センター センター長 | アドバイザー |
| 長谷川 浩 | 名古屋大学 大学院工学研究科 教授                        | アドバイザー |

※敬称略、アドバイザーは姓の五十音順

所属機関、役職は2024年11月現在

令和6年度  
「TOPのためのASPIRE」  
採択課題評価基準

|  |  |
|--|--|
| 1. 研究体制の妥当性・多様性                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の達成や成果の創出を見据えた、専門性のバランスのとれたチーム構成になっているか。</li> </ul>  |
| 2. 日本側研究チームおよび相手国側チームの研究代表者              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者は十分なマネジメント能力を有しているか。</li> <li>・研究代表者は国際的なトップ研究コミュニティの中に入り込むことが期待されるほどの十分な研究実績を有しているか、またはすでに入り込んでおり十分な研究実績を有しているか。</li> <li>・研究代表者は国際頭脳循環などを通して今まで若手研究者などの人材育成を実施した十分な実績があるか。</li> <li>・本公募の趣旨に沿った研究活動を遂行する上で、十分な研究資源（研究資金、人的・物的資源など）を備えているか。</li> </ul>   |
| 3. 研究内容および計画の妥当性と質の高さ                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究提案内容が当該研究分野・領域において高い水準のものであるか。</li> <li>・国際的に高い評価を得る研究成果の創出が期待できるか。</li> <li>・相手国側研究チームと国際共同研究を実施することによる相乗効果が期待できるか。</li> </ul>  |
| 4. 国際ネットワーク構築・拡大のための目標設定および計画の具体性・妥当性    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とする国際的なトップ研究コミュニティが明確に設定できており、本公募の趣旨に合致するものであるか。</li> <li>・目標とする国際的なトップ研究コミュニティの構築・参画・発展を目的として、適切で具体的かつ実現可能な計画が立てられているか。</li> <li>・国際ネットワーク構築・拡大のために十分な予算が確保されており、適切な予算計画が立てられているか。</li> </ul>   |
| 5. 国際頭脳循環などの促進に資する若手研究者などの人材育成計画の具体性・妥当性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの国際頭脳循環などを通じた若手研究者などの育成実績を踏まえて、適切な育成目標が設定されているか。</li> <li>・十分な数の若手研究者などが参画する計画となっているか。</li> <li>・効果的な若手研究者などの育成計画が立てられ、次世代のトップ研究者を育成するために適切な計画となっているか。</li> <li>・特に、若手研究者の渡航計画および海外からの招聘（しょうへい）計画においては、渡航先・招聘先での役割や滞在期間などが具体的かつ明確であり、研究環境や研究機関の受け入れ体制は整っているか。</li> <li>・個々の計画は、例えば派遣先、招聘先の受け入れ体制などの準備、調整・協議が具体的に進捗しているなど、実現性の高い計画になっているか。</li> <li>・若手研究者などの人材育成に十分な予算が確保されており、適切な予算計画が立てられているか。</li> </ul> |

令和6年度  
「次世代のためのASPIRE」  
採択課題評価基準

|  |   |
|--|---|
| 1. 研究内容および計画の妥当性と質の高さ                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案の背景となる問題意識が、本公募の趣旨から見て適切か。</li> <li>・計画されている研究や活動が、当該研究分野・領域において高い水準のものであるか。</li> <li>・相手国側研究チームと国際共同研究を実施することによる相乗効果が期待できるか。</li> </ul>  |
| 2. 国際頭脳循環の促進に発展する取り組みの具体性・妥当性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡航する研究者の相手国側での研究・交流活動計画は具体的で適切か。</li> <li>・後進の研究者の人材育成計画は具体的で適切か。</li> <li>・国際的かつ持続的な研究コミュニティ参画への取り組みは具体的で適切か。</li> </ul>   |
| 3. 渡航・招聘計画の具体性・妥当性                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡航する研究者の渡航先での役割は明確か。</li> <li>・渡航先の研究環境は渡航する研究者の活動・育成に十分か。</li> <li>・招聘する研究者の招聘先での役割は明確か。</li> <li>・招聘先の研究環境は招聘する研究者の活動に十分か。</li> <li>・渡航先、招聘先の受け入れ体制などの準備、調整・協議が具体的に進捗しているなど、実現性の高い計画になっているか。</li> <li>・経費の額と使途が、国際共同研究の内容を踏まえており、渡航・招聘する研究者が不足することなく効果的に計画を遂行するに十分なものであるか。</li> </ul> |
| 4. 研究体制の妥当性・多様性                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の達成や成果の創出を見据えた、専門性のバランスの取れたチーム構成になっているか。</li> </ul>   |
| 5. 日本側研究チームおよび相手国側チームの研究代表者および渡航・招聘する研究者の適格性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者は本公募の趣旨に沿った研究活動を遂行する上で、十分な資質や研究環境、研究資源（資金、人的・物的資源など）を備えているか。</li> <li>・渡航・招聘する研究者の経歴（学歴、職歴、実績など）は研究活動や交流の遂行に十分な資質を備えているか、また渡航する研究者は将来の国際頭脳循環の促進に貢献する見込みがあるか。</li> </ul>  |